

糖尿病治療の最前線

根拠のない自己判断は もっとも危険

薬物治療を拒んだ結果、脳出血を起こしたHさんのケース



担当医 久保 明先生

医学博士
糖尿病内分泌専門医
東海大学医学部
抗加齢ドック教授

患者氏名	H・T様	年齢	62歳	性別	男性	現病歴	糖尿病、高血圧
------	------	----	-----	----	----	-----	---------

職

場の健康診断で、再三、血糖値が高いことを指摘された末、ようやく受診されたHさん。糖尿病だけでなく血圧も高めですが、血圧の薬は飲まれていませんでした。糖尿病のある方は、とくに血圧を低めにコントロールしなければなりません。お願いしても聞く耳を持たない様子でした。

というのも、Hさんは基本的に「薬は飲まない方がいい」という考えの持ち主なのです。たまにこうした持論をお持ちの患者さんはいらっしゃいますが、さて、どうでしょうか。どこが悪ければ、やはり薬である程度体の状態を整えたいので、薬を使うか使わないかを選択すべきだと、私は思います。

糖尿病の薬はしぶしぶ飲んでいただけのもの、それでもご自身の判断で、飲んだり飲まなかったり…。自覚症状もないことから、「自分の体は自

分が一番良く知っている」と考えておられたようです。

そんな矢先のことでした。Hさんは、突然、脳出血を起こしてしまわれたのです。たまたま軽度だったので後遺症は残りませんが、この体験をきっかけに、Hさんの考えは180度変わりました。高血糖と高血圧を合併すると、脳出血を起こす確率が2〜3倍になります。その事実を身をもって経験されたことで、どちらの薬もきちんと飲まれるようになったのです。

Hさんは、きっと何かで知った「薬は飲まない方がいい」という情報を鵜呑みにされていたのでしよう。もちろん、情報を収集するのは悪いことではありません。しかし、大切なのは、主治医の検査や診断を受けたうえで、自分に合った情報を取捨選択することです。万一のことが起こらないよう、根拠のない自己判断はくれぐれもなさらないようにしてください。